

著者（脚注）

大腸癌の疫学

*Colorectal Cancer from New Aspects*¹

¹宮原 一弘

キーワード: 大腸癌, 罹患率, 死亡率, リスク要因, 癌検診評価¹

に大腸癌の 1950～2006 年の粗死亡率を示すが、一貫して
は、大腸癌の死亡と罹患の年齢別の推移、生存率、国際比

¹

¹ 名古屋市立大学薬学部生命薬科学科
Email [redacted]@gmail.com

脚注番号
位置

所属外アドレス

見出し

新しい観点からみた大腸癌の疫学

Epidemiology of Colorectal Cancer from New Aspects

文書タイトルと見出しが 同サイズ

キーワード：大腸癌，罹患率，死亡率，リスク要因，癌検診評価

1 はじめに

大腸癌は世界的にみても罹患率の高い癌で，従来罹患率の低かった地域でも罹患率が高くなっています。本稿では大腸癌の記述疫学と関連要因，検診の評価について述べています。結腸癌と直腸癌に差異がみられるところでは，適宜，両者を区別して述べています。

2 大腸癌の記述疫学

1 はじめに

大腸癌は世界的にみても罹患率の高い癌で，従来罹患率の低かった地域でも罹患率が高くなっています。本稿では大腸癌の記述疫学と関連要因，検診の評価について述べています。結腸癌と直腸癌に差異がみられるところでは，適宜，両者を区別して述べています。

2 大腸癌の記述疫学 **配置**

大腸癌は，部位別罹患率が世界で第3位の癌です。これは全癌の9%にあたる。従来は欧米先進国で多

5. 文献 **番号不要**

- 1) 厚生労働省大臣官房統計情報部：大腸癌の発生動向調査報告書（平成25年度）
- 2) Matsuda T, Marugame T, Kamo K et al: Cancer incidence and mortality data from 11 population-based cancer registries in Japan, 1983-2002.
- 3) Dunn JE: Cancer epidemiology in population-based studies: California--and Japan. Cancer Res 35: 2255-2262 (1975)

見出し

第1章 はじめに

大腸癌は世界的にみても罹患率の高い癌で、要度は高い。本稿では大腸癌の記述疫学と関連要因で、結腸癌と直腸癌に差異がみられると

第2章 大腸癌の記述疫学

3.1.1 リスクを低下させるもの

2001年の報告⁶⁾によると、予防効果が確認された余暇のいずれの身体活動もリスクを低下さ

0. はじめに

大腸癌は世界的にみても罹患率の高い癌で、要度は高い。本稿では大腸癌の記述疫学と関連要因で、結腸癌と直腸癌に差異がみられると

(1) 3.2. リスクを低下させるもの

2001年の報告⁶⁾によると、予防効果が確認された余暇のいずれの身体活動もリスクを低下させた。予防の可能性が高いのは食物繊維、にんにくは、比較的一致した結果や量反応関係がみられなかった。成長、分化、アポトーシスに作用すると考えられる野菜（いもなどを除く）、魚、栄養素では亜セレンウムもここに分類されている。結果の不一致があり、現在は「示唆」のレベル

(2) 第1項 リスクを上昇させるもの

リスク上昇が確実視されているものは、肉、加工肉の発癌メカニ

連番スタイルを
指示通りに

見出し

↔ 3.1 大腸癌の関連要因

一次予防は関連要因が可変なものに限られ、生活習慣の改善によるには、肺癌における喫煙や胃癌におけるピロリ菌感染などの、単一のため、生活習慣改善による地道な予防活動がより重要といえる。この関連要因について概説するが、関連要因の根拠になっている論文のほとんどは日本人の癌対策のためには、より多くの日本人集団での研究が必要である。

↔ (1) リスクを低下させるもの

2001年の報告(6)によると、予防効果が確実視されているのは身体活動、余暇のいずれの身体活動もリスクを低下させるが、この効果は直腸癌の予防の可能性が高いのは食物繊維、にんにく、牛乳、カルシウムの

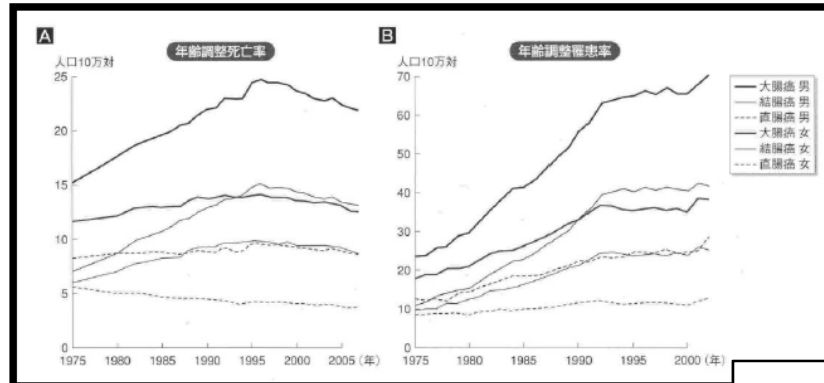
インデントは原則不要

改ページ

改ページしては
いけない場所

見出し直後

2.1 日本の大腸癌の推移



2.4. 大腸癌罹患率の国際比較

4

図2 大腸癌の年齢調整罹患率と年齢調整死亡率

現在、大腸癌は肺癌、胃癌に次ぎ、死亡順位第3位であり、癌全体に対する割合

図とキャプション

1970年代に行われた移民の研究より、結腸癌は環境に敏感な癌であることが示された(2)。日本人の大腸癌の罹患率の推移を、主に米国に比較する。75歳未満の年齢調整罹患率で比較すると、1970年代は、登録のあった34地域の中で男女とも26位で、1位の

段落

2. 大腸癌の記述疫学

大腸癌は、部位別罹患率が世界で第3位の癌である。2002年には100万人の罹患が報告されており、これは全癌の9%にあたる。従来は欧米先進国が多かったが、近年その他の地域でも増加している。日本での死亡数は、1950～2006年に11倍の増加を示している。図1に大腸癌の1950～2006年の粗死亡率を示すが、一貫して増加傾向を示している。この項では、大腸癌の死亡と罹患の年齢別の推移、生存率、国際比較について述べる。

Second Expert Report, 2001

- (7) 平成16年度厚生労働省がん研究助成金「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」
班：有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドライン。
http://canscreen.ncc.go.jp/pdf/guideline/colon_full080319.pdf, 2005

文字間が空きすぎ
段落内改行【Shift + Enter】を使用

書体の選択

新しい観点からみた大腸癌の疫学

Epidemiology of Colorectal Cancer from New Aspects

タイトルが本文と同じ書体、サイズ

あらまし

大腸癌は、国際的には全癌罹患の 9%、日本では 18%を占める重要な癌である。

1. はじめに

大腸癌は世界的にみても罹患率が高いため、その重要度は高い。本稿では、その推移や関連要因について述べる。なお、推移や関連要因

格調の高い明朝体は許容される場合も

書体の選択

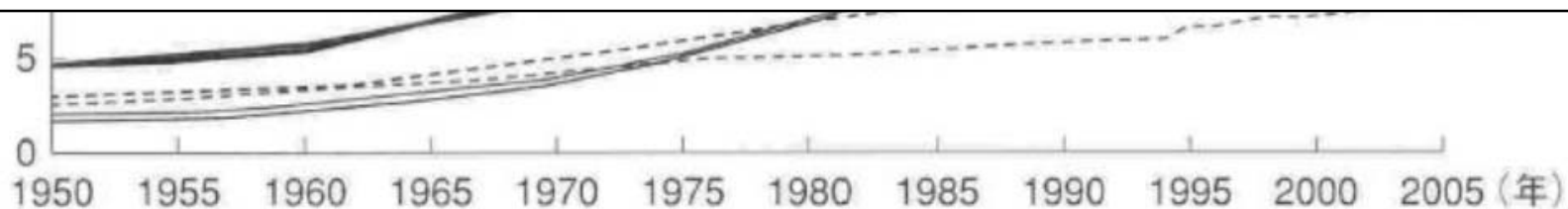


図 1 大腸癌の死亡率の推移

明朝体 + **B**

2.1 日本の大腸癌の推移

現在、大腸癌は肺癌、胃癌に次ぎ、死
である。図 2A に 1975~2006 年の大腸
た増加傾向とは異なり、1995 年以降、
腸癌でより顕著である。図 1 で観察さ

ゴシック体

書体の選択

文献

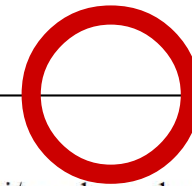
- 1) 厚生労働省大臣官房統計情報部：人口動態調査,
http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/cgi/sse_kensaku
- 2) Matsuda T, Marugame T, Kamo K et al : Cancer incidence and incidence rates in Japan in 2002 : based on data from 11 population - based cancer registries. Jpn J Clin Oncol 38(9) : 641 - 648, 2008
- 3) Dunn JE : Cancer epidemiology in populations of the United States - - with emphasis on Hawaii and California - - and Japan. Cancer Res 35(11 Pt.2) : 3240 - 3245, 1975



欧文フォントと比較

文献

- 1) 厚生労働省大臣官房統計情報部：人口動態調査, http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/cgi/sse_kensaku
- 2) Matsuda T, Marugame T, Kamo K et al : Cancer incidence and incidence rates in Japan in 2002 : based on data from 11 population-based cancer registries. Jpn J Clin Oncol 38(9) : 641-648, 2008
- 3) Dunn JE : Cancer epidemiology in populations of the United States--with emphasis on Hawaii and California--and Japan. Cancer Res 35(11 Pt.2) : 3240-3245, 1975



課題指示の残留

2.2 大腸癌の年齢階級別推移【見出し2】

【図3を挿入：大腸癌の年齢階級別死亡率，罹患率の推移】

【図番号参照1件】

5年ごとの死亡率，罹患率の推移を5歳階級別のグラフに描くと，出生コホートが追跡

2.1 日本の大腸癌の推移

現在，大腸癌は肺癌，胃癌に次ぎ，死亡順位第3位であり，癌全体に対する割合は約13%である。【図2】Aに1975～2006年の大腸癌の年齢調整死亡率を示す【[1]】。粗死亡率の一貫した増加傾向とは異なり，1995年以降，明らかな減少傾向が続いている。この傾向は男の結腸癌でより顕著である。【図1】で観察された粗死亡率の最近の上昇は，人口の老齢化によるものだと考えられる。一方，罹患数は癌全体の18%を占め，1位の胃癌とほぼ並んで2番目に多い。【図2】Bに年齢調整罹患率【[2]】を示す。1992年以降は横ばい～微増にとどまり，一貫して続いていた増加傾向に歯止めがかかっている。

ひな形に書かれた指示が残っている
【 】

相互参照関連

2.1. 日本の大腸癌の推移

現在、大腸癌は肺癌、胃癌に次ぎ、死亡順位第3位であり、癌全体に対する割合は約13%である。**エラー! 参照元が見つかりません。**に1975~2006年の大腸癌の年齢調整死亡率を示す1)。粗死亡率の一貫した増加傾向とは異なり、1995年以降、明らかな減少傾向が続いている。この傾向は男の結腸癌でより顕著である。**エラー! 参照元が見つかりません。**で観察された粗死亡率の最近の上昇は、人口の老齢化によるものだと考えられる。一方、罹患数は癌全体の18%を占め、1位の胃癌とほぼ並んで2番目に多い。**エラー! 参照元が見つかりません。**に年齢調整罹患率2)を示す。1992年以降は横ばい~微増にとどまり、一貫して続いていた増加傾向に歯止めがかかっている。

エラー！ 参照元が見つかりません。

相互参照設定後に参照元を削除すると発生

相互参照 / ハイパーリンク

2.1 日本の大腸癌の推移

現在、大腸癌は肺癌、胃癌に次ぎ、死亡順位第3位であり、癌全体に対する割合は約13%である。【[図 2 大腸癌の年齢調整罹患率と年齢調整死亡率](#)】Aに1975～2006年の大腸癌の年齢調整死亡率を示す[1]。粗死亡率の一貫した増加傾向とは異なり、1995年以降、明らかな減少傾向が続いている。この傾向は男の結腸癌でより顕著である。【[図 1 大腸癌の死亡率の推移](#)】で観察された粗死亡率の最近の上昇は、人口の老齢化によるものだと考えられる。一方、罹患数は癌全体の18%を占め、1位の胃癌とほぼ並んで2番目に多い。【[図 2 大腸癌の年齢調整罹患率と年齢調整死亡率](#)】Bに年齢調整罹患率[2]を示す。1992年以降は横ばい～微増にとどまり、一貫して続いていた増加傾向に歯止めがかかっている。

図番号【全体】を参照

文献

- (1) 厚生労働省大臣官房統計情報部：人口動態調査, http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/cgi/sse_kensaku
- (2) Matsuda T, Marugame T, Kamo K et al : Cancer incidence and incidence rates in Japan in 2002 : based on data from 11 population-based cancer registries. Jpn J Clin Oncol 38(9) : 641-648, 2008

ハイパーリンクは削除